

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2017 No.503

11 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



第33回日本診療放射線技師学術大会・ 第24回東アジア学術交流大会 開催される



平成29年9月22日(金)から24日(日)までの3日間、北海道 函館市民会館および函館アリーナにおいて、第33回日本診療放射線技師学術大会・第24回東アジア学術交流大会が開催された。

公益社団法人日本診療放射線技師会の主催、一般社団法人北海道放射線技師会の共催により「国民と共にチーム医療を推進しよう 未来への開港 一技の継承と飛躍」をテーマに掲げ開催し、約1,800人の参加者があった。演題数は588演題となり、過去最多となった。

学術大会の前夜祭として、21日(木)午後4時30分からAsia Forum 2017が開催され、アジア地域11カ国の会長による教育制度の紹介とISRRT組織の紹介が行われた。

22日(金)には開会式が執り行われ、佐野副会長による開会宣言の後、中澤会長により開会を告げる鐘の音が会場一杯に響き渡った。中澤会長による主催者あいさつに続き、板東大会長によるあいさつがあり、厚生労働省医政局長のあいさつ文が紹介された。北海道知事、函館市長、大韓放射線士協会会長、中华民国医事放射学会会長、北海道医師会会長のご本人あるいは代理の方からごあいさつを頂いた。続いて、公益社団法人日本放射線技術学会代表理事、一般社団法人日本画像医療システム工業会会長、公益社団法人函館市医師会および衆議院議員、各国代表者などのご来賓の紹介があり、



開会式の様子

祝電が披露された。また50年・30年永年勤続表彰、学術奨励賞、さらに今回から設けられた社会貢献を賞賛する江間賞の授賞式が執り行われた。開会式の閉会を熊代副会長が告げ、開会式を終了した。

教育講演として、東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 真田弘美教授による「研究が医療を動かす—褥瘡ゼロに向けてのストラテジー」の講演を頂いた。招聘講演は、The University of Auckland, Associate Professor Dr. Jenny Hiow Hui Sim による「Current Situation and Future Perspective of Education for Radiographers in New Zealand」およびEuropean Federation of



Asia Forum 2017



テープカットの様子



板東大会長によるあいさつ



開会の鐘の音



Dr. Håkon H. Hjemlyとともに



盛大に開かれた情報交換会

Radiographer Societies, President Dr. Håkon H. Hjemly による「Current Situation and Future Perspective of Education for Radiographers and Radiologic Interpretations by Radiographers in Europe」の講演を頂いた。特別講演では、札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所 本望 修教授による「脳梗塞と脊髄損傷の再生医療 ―医師主導治験による実用化―」の講演、さらにシンポジウム・分科会企画・口述発表・示説発表など、充実した内容で行われた。

情報交換会は、会場をフォーポイントバイシェラトン函館に移し、午後7時から開催された。中澤会長、板東大会長のあいさつの後、日本放射線技術学会 小倉明夫代表理事、一般社団法人日本画像医療システム工業会 小松研一会長、そして多くの国会議員よりご祝辞を頂いた。新開英秀監査監事の乾杯の発声により祝宴の口火が切られた。海鮮乗せ放題の丼、塩ラーメン、まるごとふかしたジャガイモなど、北海道ならではの料理を堪能した。余興では、巴太鼓の演奏に各国の代表者が参加し、会員による“PERFECT HUMAN”のパフォーマンスが飛び入りで行われるなど、大いに盛り上がった。次期開催県の一般社団法人山口県診療放射線技師会 山内会長による開催案内の後、富田実行委員長のあいさつでお開きとなった。

23日(土・祝)は、中澤会長による「日本診療放射線技師会の現状と課題」と題した会長講演が行われた。特別講演では、鈴鹿医療科学大学 豊田長康学長による「論文分析から見た日本の医療研究の成果と課題」、名古屋大学大学院医学系研究科 竹原康雄教授による「腹部MRIの最前線」の講演を頂いた。教育講演は、社会医療法人禎心会セントラルCIクリニック 玉川光春院長による「骨・関節のX線画像診断 ～放射線技師ならここをおさえろ～」、札幌医科大学医学

部脳神経外科学講座 鰐淵昌彦准教授による「手術と放射線技師の関わり」などが行われ、日常業務に直結する内容が多く企画された。海外からの発表も多く、インターナショナルセッションは6つに上った。

最終日の24日(日)は、市民公開講座が行われた。札幌医科大学医学部病院管理学 土橋和文教授が「高齢化社会 ―長く生きるために― 老化にともなう循環器疾患とその予防について」と題して、ピンピン生きる10カ条から2015年問題まで分かりやすく講演された。また特別講演として公立ほこだて未来大学 松原 仁教授による「人工知能最前線：人工知能は世の中をどう変えるか」が行われた。

今回の学術大会では、腹部エコー・CTC・3D画像作成・撮影補助具作成のハンズオンセミナー、さらに25種類に及ぶプログレップセミナーが企画・開催された。

閉会式では、示説発表における優秀賞として3演題が表彰された。中澤会長から主催者あいさつ、板東大会長からあいさつがあり、中澤会長により閉会を告げる鐘が鳴らされた。鐘は、北海道実行委員会から次期開催県である山口県実行委員会へ引き渡され、次期学術大会 山内大会長からあいさつがあった。その後、北海道実行委員会に中澤会長から感謝状が授与され、富田実行委員長が代表して受け取った。佐野副会長による閉会の辞をもって、3日間にわたる学術大会は成功裏に幕を下ろした。

来年度の第34回日本診療放射線技師学術大会は、平成30年9月21日(金)から23日(日・祝)の日程で、海峡メッセ下関および下関市生涯学習プラザで開催する予定である。

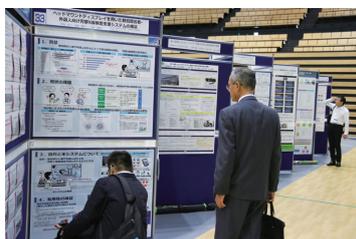
なお、今回紹介した講演内容の一部は、会誌に掲載する予定である。



日韓台代表者会議の様子



日放シンポジウム



示説会場



3D作成ハンズオンセミナー

全国会長会議開催される

平成29年9月23日（土・祝）に、函館市民会館大会議室で全国会長会議が開催された。本会議には各都道府県（診療）放射線技師会会長の出席があった。初めに、中澤会長より話があった。1つ目は、学位取得についてであり、今後は修士・博士号の取得が重要であるとのことであった。2つ目は、医師・歯科医師・診療放射線技師以外の職種が、放射線を照射した事例があったとの報告であった。診療放射線技師の部門で放射線安全管理を徹底していただき、このような事例が起らないようにとの内容であった。その後、7人の新任（診療）放射線技師会会長が紹介された。

本会議は「柔道整復師法一部改正法案に対する反対表明決議について」「執行理事による地域への出張内規について」「61歳以上の年会費について」「都道府県における養成校設立の動きについて」「災害支援診療放射線技師研修会開催について」「永年勤続表彰について」「被ばく低減施設認定への協力について」「アンケート調査への協力について」および「統一講習会受講率等について」の9議題であった。

「柔道整復師法一部改正法案に対する反対表明決議について」では、中澤会長より報告があり、柔道整復師が撮影のための엑스線照射を行うことについて、本会として反対表明決議を9月1日付で医事課長へ提出したとのことであった。「61歳以上の年会費について」では、小田理事より報告があった。現在、以前の総会でも意見があった61歳以上の年会費減額について、検討している内容が報告された。「災害支援診療放射線技師研修会開催について」では、北川理事から報告があり、災害支援チームとして活躍するための研修プログラム（案）が公表された。開催日は平成29年12月

23日（土・祝）・24日（日）であり、本会事務所講義室で開催される予定である。「永年勤続表彰について」では、江田理事より報告があった。永年勤続表彰の要件を誤認識されていた都道府県（診療）放射線技師会が見られたため、再度確認する内容であった。勤続30年表彰の要件は「30年以上診療放射線技師関連業務に従事した者で本会に入会后引き続き15年以上会費を完納した者」であるので、ご確認されたい。「被ばく低減施設認定への協力について」では、横田理事より報告があった。医療被ばくが他の先進国と比較し多い状況であるとの日本学術会議からの提言があり、医療被ばく低減への取り組みが求められている。そのような状況下で、本会でも医療被ばく低減施設認定を平成32年度診療報酬改定までに進めていく取り組みが報告され、70施設を超える医療被ばく低減施設が公表された。他の医療機関についても、医療被ばく低減施設認定についてご協力いただきたいとのことであった。「アンケート調査への協力について」では、小林理事より平成29年度診療放射線技師業務に関する調査について都道府県別回答数の報告があった。回答数がまだ不足しており、各都道府県（診療）放射線技師会へ協力を要請した。



国家試験日程決まる

第70回診療放射線技師国家試験の施行について、平成29年9月1日付で厚生労働省から報告があった。

試験期日は平成30年2月22日（木）、試験地は北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県である。試験科目は基礎医学大要、放射線生物学（放射線衛生学を含む）、放射線物理学、放射化学、医用工学、診療画像機器学、엑스線撮影技術学、診療画像検査学、画像工学、医用画像情報学、放射線計測学、核医学検査技術学、放射線

治療技術学、放射線安全管理学である。合格発表は平成30年3月27日（火）午後2時。なお、試験に関する手続きおよび問い合わせ先は、以下の通りである。

診療放射線技師国家試験運営本部事務所

〒171-0021

東京都豊島区西池袋1-7-7 東京西池袋ビルディング13階

TEL：03-5396-7837

平成29年度 第2回 超音波実技講習会 開催報告

平成29年9月18日(月・祝)、本会事務所講義室で平成29年度第2回超音波実技講習会「頸動脈・下肢静脈領域」が開催された。

本講習会は8月に開催した「腹部領域」に引き続き、「今から始める超音波検査」と題して、超音波検査未経験または初心者のミドルシニア・シニア会員を対象に実施された。講習会当日は台風18号の影響も懸念されたが、受講者23人が参加され、熱心に講義と実技を受講した。

プログラムは「プローブの扱い方」「超音波の基礎原理」の説明から始まり、午前は「頸動脈」、午後は「下肢静脈」の超音波検査についての講義・実技を行った。各講義は、超音波未経験者にも分かりやすいよう講義内容や資料が構成され、実技指導においても講師5人、実技インストラクター5人、合計10人の超音波エキスパートの先生方が受講者一人一人に丁寧に検査手技を指導された。

頸動脈超音波は狭窄や動脈硬化の評価に優れ、下肢静脈超音波は深部静脈血栓症の評価に有用であり、これらの手技を習得することで、健診センターでの就労や災害・救急医療への貢献など、ミドルシニア・シニア世代を中心に診療放射線技師の活躍の場が大きく広がることを期待している。本会では、今後も本プログラムおよび本超音波事業を行う。

多くの診療放射線技師が超音波検査を習得し、検査室だけでなく、ベッドサイド診療・在宅医療・災害支援など、あらゆる場面で医療・福祉へ貢献できるよう、今後も本事業の継続・発展に精進したいと考えている。

最後に、本講習会開催に当たり、講師・実技インストラクターを務めていただきました会員の皆さま、超音波装置を提供いただきました株式会社日立製作所のスタッフの皆さま、日本診療放射線技師会関係各位に感謝申し上げます。

(医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 糟谷明大)

第25回 読影分科会ナイトセミナー開催される

平成29年9月25日(月)、本会事務所講義室で第25回読影分科会ナイトセミナーが参加者40人で開催された。講師には大阪市立大学医学部附属病院の市田隆雄氏を招き「腹部領域について(肝臓を中心に)」をテーマに開催された。主な内容は、上腹部の解剖・働き・疾患である。本テーマは、次回の平成30年1月22日(月)開催を含めてシリーズ化(①、②)しており、シリーズ①基礎編、②発展編としている。基礎編では、ベーシックな胃・肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓の位置関係・機能・病態、そしてCTを中心に診断における“読影の補助の立ち位置”が解説された。例えば胃がん疑いでのCTであれば、一般的に上部消化管X線検査あるいは内視鏡検査で病変(+)→生検実施→良性・悪性および組織型判定→病理判定→悪性…、との結果経過を経ての検査依頼であり、その選択肢も超音波検査・注腸検査を含めたモダリティから選択されていることが述べられた。そしてこの場合の検査意図は、病期診断、治療方法の決定にある。また転移の有無についての臨床診断も確定される必要がある。そのような念頭でCT画像の読影の補助が必要であり、着目する臓器で周辺臓器が変わって



る機序も解説された。胃体部下部～幽門部に壁肥厚、リンパ節転移の進行胃がんの典型的症例が示され、sliceごとのCT画像を動的に観察する読影の補助のテクニックが述べられていた。そして子細を観察できる術が、それを描出できるよう工夫(撮影条件・slice厚・造影条件などの改善)になることも言及され、放射線診療における早期発見・早期治療に貢献できるように、読影の補助に努めることの大切さが示された。

平成29年度 診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会 開催

平成29年9月1日（金）～3日（日）に、平成29年度診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会がP-MET（公益財団法人医療研修推進財団）との共催により、東会場である本会事務所で開催された（西会場：臨床研究情報センターで12月15日（金）～17日（日）を予定）。

この講習会は、診療放射線技師の養成教育に従事している実習指導者に対し、診療放射線に関する最新の知識・技術を習得させ、実習指導者としての資質の向上を高めた上で実習を効果的に実施し、診療放射線技師の資質の向上を図ることを目的として開催している。医療の高度化・複雑化、国民の価値観の多様化や医療に対する権利意識の高まりなどに伴い、医療専門職を取り巻く状況が大きく変化している。そのため医療人としての根拠が倫理感や人間力であることから、ヒューマンスキルが重要視されている。初めて医療現場に立ち入る臨床実習に、放射線業務・技術とともに医療人としての基本姿勢、コミュニケーション技術を学ぶことが医療人教

育のスタートである。

今後も医療を取り巻く状況変化に伴う養成講習会になるよう、継続事業として講習会開催を進める。

※P-METとは

医療に関する各分野を横断的かつ統合的に捉え、国民が願う良質な医療を提供するため、医療従事者を対象とした研修システムの開発とその実施、関係団体が実施する研修の支援および関係情報の収集・提供を行うことを目的として、平成7年10月に厚生大臣の許可を受けて設立。厚生労働省の指導の下、医師および医療従事者に対する各種の研修・講習会、医療研修情報提供システムによる医療研修情報の収集や提供などの事業、さらに医師臨床研修マッチング事業や、診療放射線技師・理学療法士・作業療法士など、医療関係職種を対象とした実習施設指導者講習会などを行い、卒後研修の充実に貢献している。

放友会開催される

平成29年9月21日（木）、函館湯の川温泉花びしホテルで小川利政監事および新開英秀監事の下、放友会が開催された。出席者は元役員4人、監事2人および理事ら23人であった。初めに、出席者全員で記念撮影を行い、その後、中澤会長によるあいさつに続き元役員と現役員らの親交が図られた。

「放友会」は、31年前の昭和61年6月、JART主催の催し物などの際に元役員らが一堂に会して旧交を温め、末永く親交を図ることを目的として開催決定されたものといわれている。当時のJART監事の岩佐誠先生、藤野哲三先生、竹内稔先生が発起人となり、現会長を名誉会長とすることも決定したとのことである。その後の慣例として、現監事が世話人になり開催されてきた。

今後とも、元役員の方の皆さま方におかれましてはご出席いただき、現役員を叱咤激励いただきますようお願い申し上げます。



平成28年度 永年勤続表彰者

平成29年度 第33回日本診療放射線技師学会大会開会式で表彰式が執り行われました。
おめでとうございます。

50年勤続表彰



- | | | | | | | |
|---------------|---------------|--|---------------|---------------|---------------|----------------|
| ■北海道
中村 孝行 | ■福島県
荒井 忠一 | ■東京都
川崎 司朗
山本 四郎
久保田 三平
中村 宣男
松田 向陽 | ■新潟県
伊藤 宰 | ■岐阜県
市川 秀男 | ■兵庫県
時本 康紘 | ■鹿児島県
山口 信夫 |
| ■岩手県
山本 優次 | ■茨城県
畠山 六郎 | ■富山県
室谷 正吾 | ■京都府
久保 昌博 | ■島根県
多久和 豊 | | |
| ■宮城県
石井 出一 | ■栃木県
梅野 一雄 | ■石川県
油 省三 | ■兵庫県
大村 正 | ■徳島県
石川 正弘 | | |

計21人

30年勤続表彰



北海道
一ノ関 雅明
渋川 昭宏
戸田 康文
阿部 俊男
秋谷 藤賢
増子 成敏
榎村 文
後藤 弘
武田 俊
毛利 孝
佐藤 保
高橋 生人

青森県
藤田 彰
竹山 徹
佐々木 進
久保田 澄
常田 光昭
片岡 ひろみ
岩瀧 郁美
藤田 昌善
船水 信夫

岩手県
鎌田 雅健
村中 健
桐井 美
千内 喜
澤葉 昭
佐藤 博司

宮城県
鈴木 幸弘
千葉 淳一
小野林 寿奈子
千野 敏彦
石倉 和昭
仁杉 好人
神永 慎吾
齋藤 雅伸
小保 由喜
近石 百合子
小前 裕洋
松田 邦博
小室 智子

秋田県
佐藤 義晴
佐々木 由起子
照井 正信
齊藤 龍晴
法花 堂学

山形県
加藤 信雄
伊藤 昭俊
笹藤 義正
小池 晋

福島県
川名 豊
中里 史郎
末永 明
菅野 由美子
渡辺 治光
池田 寛一
荻野 泰文
伊藤 昭
池田 和
大小 林哲
篠原 宏幸

茨城県
富山 丈一
小白 芳伸
山庭 等
中山 敏
小島 茂
宮本 忠次
西部 美和
鈴木 雅也
野村 孝弘

栃木県
新井 和浩
幸田 好弘
吉成 亀蔵
亀田 卓世
大貫 信春
坂元 一吉
牧島 正道

群馬県
亀田 順一
南山 昇
都丸 好孝
野丸 隆之
千叶 真弓
石倉 和幹
仁杉 好義
神永 慎隆
齋藤 雅伸
小保 由喜
近石 百合子
小前 裕洋
松田 邦博
小室 智子

埼玉県
諸神 澄邦
神宮 山智
上宮 澤浩
橋本 圭弘
松本 本紀
吉澤 秀人
成田 政直
澁谷 英治
山本 清孝
結城 朋子
小野 陽子
早瀬 木忠
鈴木 敏

千葉県
藏本 明美

長尾 茂 幸
田仲 立 篤
鈴木 裕
滝口 実
川崎 洋
藤原 康
西澤 敬
佐瀬 真由美
高橋 彰

東京都
竹内 金枝
高下 弘明
所司 修一
竹内 善道
黒川 岩俊
石井 秀
斉藤 靖
横山 靖
岸見 孝
浅黒 康
目島 正

神奈川県
中川 直樹
此久 公紀
津井 達人
大内 幸敏
池本 孝司
市瀬 雅
川中 雅子

新潟県
水落 佳広
倉倉 秀作
小熊 義則

富山県
小久米 雅明
吉村 忠康
野手 伊知郎
松嶋 正則
橋本 敏一
大石 吉規

石川県
中川 和恵
澤本 孝広
水口 学
柏原 巧
星場 克彦

福井県
西村 英明
松田 敏克
夏目 正樹

山梨県
中島 正弘
高橋 聖一
天野 正典

長野県
柳沢 直樹
関口 壮一
林村 徳博
松中 知英
田哲 郎

岐阜県
石原 茂秀
恋田 昭洋
太田 三恵子
大野 弘美
箕浦 孝一
丹後 和彦
川地 藤英
伊藤 博
亀井 靖
早藤 明
岩井 哲
藤井 泰成

静岡県
中山 修理
白井 真健
大須賀 宜
天野 名泰
星上 信
水間 健二

愛知県
大島 暑四
矢野 哲也
清水 妙子
成田 憲彦
柴山 秀樹
松下 徳松
安形 邦男
渡邊 栄次
新宮 幸浩
鈴木 光
野矢 伸治
磯鈴 誠治
駒田 啓博
牧野 三洋
鈴木 正広
横地 健康
嶋名 康久
坂本 享三
鈴木 康

三重県
松岡 克巳
落合 哲也
浅沼 源示
界外 敏和
片山 井茂

滋賀県
古山 忠宏
藤原 将洋
山本 和永
野須原 厚志
青山 出道
三原 良彦

京都府
小西 隆広
西端 雅之
村上 孝明
北井 松宏
森本 浩
川本 洋
渡里 浩
藤元 洋

大阪府
千間 伸二
森川 佳彦
田村 安宏
岡崎 健司
西村 久哉
吉石 秋弘
高岡 明
土谷 輝美

兵庫県
甲山 精二
入江 潤一
大西 俊一
西川 雅行
松月 久穂
田路 則義
木戸 義照
狩山口 春也
山形 邦典
小田 栄次
新井 幸光
木戸 浩
村上 和

奈良県
福富 淳子
村正 道和
高谷 泰二
中川 浩一
吉西 隆美
小余 克美

和歌山県
野口 能秀
中尾 裕次
北垣 徳文
保家 文守

鳥取県
森山 茂

島根県
日野 理恵
山口 裕三

岡山県
本馬 本
田さだえ
場隆志
田真貢

広島県
松浦 栄
池田 俊貴
丸石 博文
山本 雅之
木田 幸夫
星中 本幸

山口県
岩永 秀幸
真鍋 憲史
小田 真一郎

徳島県
郡野 勉
岩野 晃
天羽 隆
大塚 康
竹田 修治

香川県
楠仁 志美
三好 益雄
犬伏 副

愛媛県
石川 幸一
渡部 昌弘
片山 弘明

高知県
宮川 和之
大西 学
竹村 真一
山本 晃司
窪田 幸博
大西 博

福岡県
有村 寿男
服部 昭哲
中島 徹
渡部 太郎
伊藤 智美
西谷 敏郎
高嶋 信行
林田 信城
本野 永博
藤国 分
松永 野千
中土 野比
坂生 口新
小松 龍

松井 昌敏
上谷 慎二
川村 詞重
萩原 久美子
渡中 裕成
松本 秀道
川田 勝実
福邊 輝和
渡山 昌
横真 山邦
山野 健
平川 真

佐賀県
迎古 強人
賀濱 實洋
東島 和久

長崎県
小堀 洋一
阿比留 真昭
山林 田和
大塚 正弘

熊本県
肥合 康弘
坂元 成行
緒方 隆昭
清田 伸治
西小野 昭人

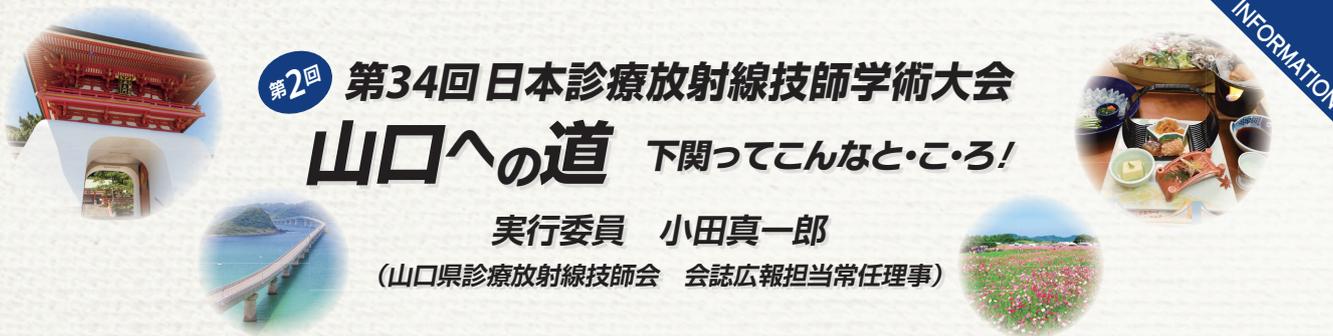
大分県
小石 幸生
黒瀧 慎一
瀧下 也満

宮崎県
日高 信輔
内田 国美

鹿児島県
重信 隆彰
園田 実郎
飯伏 順一郎
藤崎 拓公
児郷 玉輝
西松 康正
永山 芳正
田口 照明
利樹

沖縄県
宮本 道美
新里 力
神谷 篤
杉尾 浩

INFORMATION



第2回 第34回日本診療放射線技師学術大会
山口への道 下関ってこんなところ!
実行委員 小田真一郎
 (山口県診療放射線技師会 会誌広報担当常任理事)

吉田松陰と高杉晋作(その1)

前号で、第34回日本診療放射線技師学術大会と第6回アジア放射線治療シンポジウムの開催地である下関市とその周辺を大まかに案内しましたが、今号から来年の7月号まで、少し詳しく紹介していきたいと思います。

今回、われわれが提案したサブテーマは「時代の潮流を見極める」ですが、「時代の潮流」とは、源平最終決戦の壇ノ浦の合戦や、幕末の外国船打ち払い、第2次長州征伐など、歴史の転換点の舞台となった関門海峡を意識したものです。そこでまず、山口の歴史を紹介してみましょう。

戦国時代、「三本の矢」で有名な毛利元就以降、毛利氏が安芸の国から中国地方一帯10国の支配者となり、天下を取ろうかというまでに勢力を拡大したものの、関ヶ原での敗戦により防長二州(周防と長門の国)に滅封され、長州藩となりました。当時、上級・中級武士は家禄が減っても萩へ移り、知行も扶持もなくなった下級者に至っては、農民になってまでも皆が宗主輝元に従いました。幕末、高杉晋作が結成した「奇兵隊」を見れば分かるように、長州藩が階級・身分に関係なく結束が強かったのは、「先祖は皆、毛利の家来」という意識があったからであろう…、と司馬遼太郎も記しています。山口県診療放射線技師会も先人に習い、固い結束で全国大会を成功させる所存です。

司馬遼太郎といえば、坂本竜馬を歴史上のNo.1ヒーローに仕立てた張本人ですが、山口県では高杉晋作が人気No.1です(山口県出身の安倍首相も、親子で名前に「晋」の字を使っていますね)。そして晋作の師匠である吉田松陰が、たった2年足らずの期間、萩の松下村塾で晋作をはじめとする数多くの若者に思想的な影響を与えていなければ、明治維新は違った形になっていたといわれています(大会ポスターの銅像は、弟子に指導する松陰の姿です)。その松陰の教育の基本は、強烈な実践主義といわれていますが、「飛耳長目(ひじちょうもく)」という、中国の言葉も教えています。これは「より遠くまで見聞きする」、すなわち情報収集の重要性を説いていたわけですね。何とも学術大会にピッタリな言葉じゃないですか!

ちなみに松下村塾は、もともと松陰の叔父である玉木文之進が身分を問わず生徒を募り作った塾で、松陰も塾生として叔父に猛烈に厳しい指導を受けたそうです(塾自体は何度か再開され、明治25年ごろまで続いたようです)。そして塾生ではないものの、文之進に指導を受けたのが、明治天皇を慕って妻と共に自刃・殉死した乃木希典陸軍大将です。その乃木大将の邸宅の隣地に、夫妻を祀るため創建されたのが「乃木神社」、その後、周辺の坂は総じて「乃木坂」と呼ばれるようになりました。何と、吉田松陰が人気アイドルグループとつながっているとは…。



JART求人広告掲載について

INFORMATION

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

本会の動き

診療報酬政策立案委員会より

診療報酬政策立案委員会の活動は、大きく3つの業務に分けられます。

1. 診療報酬改定の要望書作成：アンケート調査を実施し、会員の皆さまからのご意見を診療報酬改定に反映するよう要望書を作成し、厚生労働省に提出。
2. 診療報酬の情報発信：診療報酬改定後には、会員向けにその趣旨および内容を解説。
3. シンポジウムの実施：学術大会でのシンポジウムにおいて上記1、2についての講演・討論を実施。

上記の3つの業務についてさらに付け加えますと、

1. 要望書作成・提出については、平成30年度診療報酬改定の要望書を平成29年6月15日に厚生労働省医政局経済課、6月19日に医療課保険局に提出致しました。
また厚生労働省の人事異動に伴い、7月24日に保険局、9月1日に医政局経済課を再度訪問し、要望書について説明を致しました。

平成30年度診療報酬改定の要望としては、

1. 医療安全のための管理対策の構築について
 - 1) 放射線関連の医療機器安全管理についての取り組みへの評価
 - 2) 画像精度管理についての取り組みへの評価
 - 1 検像等に関わる画像の精度管理についての取り組みへの評価
 - 2 モニタに関わる品質管理についての取り組みへの評価
 - 3) 医療放射線による被ばく管理についての取り組みへの評価
 - 4) 感染防止対策についての取り組みへの評価
2. ポータブル撮影における別建ての評価
3. 管理区域外での撮影（在宅撮影とする）の評価
4. X線単純撮影検査の技師配置の要件について
5. 算定要件中に「診療放射線技師」の表記を明瞭化
 - 1) 画像等手術支援加算における診療放射線技師の取り組み
 - 2) 冠状動脈CT撮影加算における施設要件
 - 3) 心臓MRI撮影加算における施設要件
 - 4) 血管撮影室の管理について
 - 5) 核医学検査における施設要件について
 - 6) 放射線治療装置の管理について

今回の要望は、今まで以上に「質」転換改善のための「施設基準」の重要性に焦点を当て、単に診療報酬上の点数評価を求めるのではなく、「施設基準に求められる診療放射線技師の要件」を明確に入れることで医療の質が上がることをアピールし、技師自らが業務に対する質を問う向上を目指すことが、認定制度などを含めて、診療報酬上の評価としても必要であることを考えて作成致しました。

2. 上記の要望書および資料については、詳しく会誌に掲載する予定です。
3. 先日、函館の学術大会において「「質」転換改善のための施設基準の重要性」をテーマにシンポジウムを行いました。
この診療報酬のシンポジウムは、2005年の学術大会より13回継続して行っております。

昨年は、基調講演講師の國光文乃先生にお礼のごあいさつとともに日本診療放射線技師会および診療報酬政策立案委員会の方向性・活動内容をご紹介します、ご理解いただきました。このように厚生労働省の方々に診療放射線技師の現状についてご理解いただけるよう活動を続けてまいります。

なお今回のシンポジウムでは、来年度診療報酬改定が医療・介護の同時改定ということもあり、厚生労働省の方の基調講演が組めませんでした。日本画像医療システム工業会（JIRA）の野口さまに基調講演をお願いし、「施設基準の重要性」について示唆に富んだ内容をお示しいただき、活発な議論へと展開できました。シンポジウムの参加者も100人近くで、関心の高さがうかがえました。

最後に、平成30年度診療報酬改定のためのアンケートでは、会員の皆さまのご協力の下、1,121施設より回答が集まりました。厚生労働省では1,000件以上で「エビデンス」があると認められ評価されます。今回の要望書・資料において、とても興味を持たれて多くの質問を受けました。しかし、日本における病院の数は8,500近くあります。今回のアンケートの対象は、本会会員の在籍する4,519の医療施設でしたが、回収率（24.8%）はもっと上げられると思われれます。皆さまの声を反映させるにはパワーが必要です。パワーはエビデンスであり、数の多さです。今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（藤井雅代）

ハンドルを握ると性格が変わる!?



普段は温厚でとっても良い人なのに、なぜか車を運転するときには言動が粗暴に……。心理学的にはこれを“ドレス効果”と言うらしい。“制服を着ることで別人格が生まれる”という効果で、例えばわれわれが白衣を着ると仕事のスイッチが入る、というのも同じ理由だそうだ。

確か、秘書に罵声を浴びせた国会議員がいるが、それも“ドレス効果”なのだろうか。

俗諺に「百日の説法、屁一つ」という。せっかく積み上げた修養も、たったいつときの怒気のために破壊されてしまうことがある。この世に怒らない人はほとんどいないと思う。では、

いかなる怒りが正当であるのか。岩手の先人、新渡戸稲造先生は「自分の利害に関係しないこと、または自分以上の主義のために怒ることであれば、それは正当な理由から出た正しい怒りであると思う」と言われた。

昨今、医療における放射線業務を他の職能団体に拡大しようとする動きがある。国民のために放射線業務が適正に運用され、医療および公衆衛生の普及向上に寄与するために、この規律がゆがめられるとするならば、私たちは大いに怒るべきだと思う。

(文責：永峰正幸)

11月・12月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■ 業務拡大に伴う統一講習会：	秋 田	11月19日(日)・26日(日)	富 山	11月25日(土)～26日(日)
	広 島	11月25日(土)～26日(日)	福 岡	11月25日(土)～26日(日)
	岩 手	12月 2日(土)～ 3日(日)	宮 城	12月 2日(土)～ 3日(日)
	石 川	12月 2日(土)～ 3日(日)	三 重	12月 2日(土)～ 3日(日)
	奈 良	12月 2日(土)～ 3日(日)	大 阪	12月 2日(土)～ 3日(日)
	群 馬	12月 3日(日)・10日(日)	静 岡	12月 3日(日)・10日(日)
	愛 知	12月 9日(土)～10日(日)	岐 阜	12月16日(土)～17日(日)
■ 基礎技術講習(消化管撮影)：	新 潟	11月25日(土)		
■ 基礎技術講習(血管造影検査)：	千 葉	11月26日(日)		
■ 基礎技術講習(画像等手術支援)：	愛 知	12月23日(土・祝)		
■ 読影セミナー：	大 阪	11月19日(日)		
■ 放射線管理士講習会：	東 京	11月26日(日)		
■ 医療被ばく低減施設認定取得セミナー：	大 阪	12月17日(日)		

結核研究奨励賞候補者の推薦について

INFORMATION

公益財団法人結核予防会より、本会へ結核研究奨励賞候補者の推薦依頼がありました。本賞は医療技術関係者の結核に対する関心を高め、結核に関する実践的研究を振興奨励するために設けられております。会員の皆さまの中に該当者がおられましたらご推薦いただきますようお願い致します。

- 該 当 職 種：診療放射線技師、診療エックス線技師
- 対 象：結核に関する調査研究で優れた内容を持ち、原則として過去3年以内に学会、研究会、雑誌などに発表されたもの。1つの主題について、何年かに分けて発表されたものをまとめたものでもよい。
- 必要な書類：(1) 履歴書
 (2) ・学会または研究会で発表された研究については、発表原稿(または2,000字程度の抄録)とスライド原図、またはそれに相当するもの1部(コピー可)
 ・雑誌に発表された研究については別刷り1部(コピー可)
 (3) 研究内容要約(研究課題名、発表者、所属、学会発表、研究会、雑誌名も含めて400字以内、A4版1枚)
- 締 め 切 り：平成29年12月15日(金)本会へ必着

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。